

平成23年度  
ミュージアムエディケーター研修



## 東京国立博物館 盲学校のためのスクールプログラム

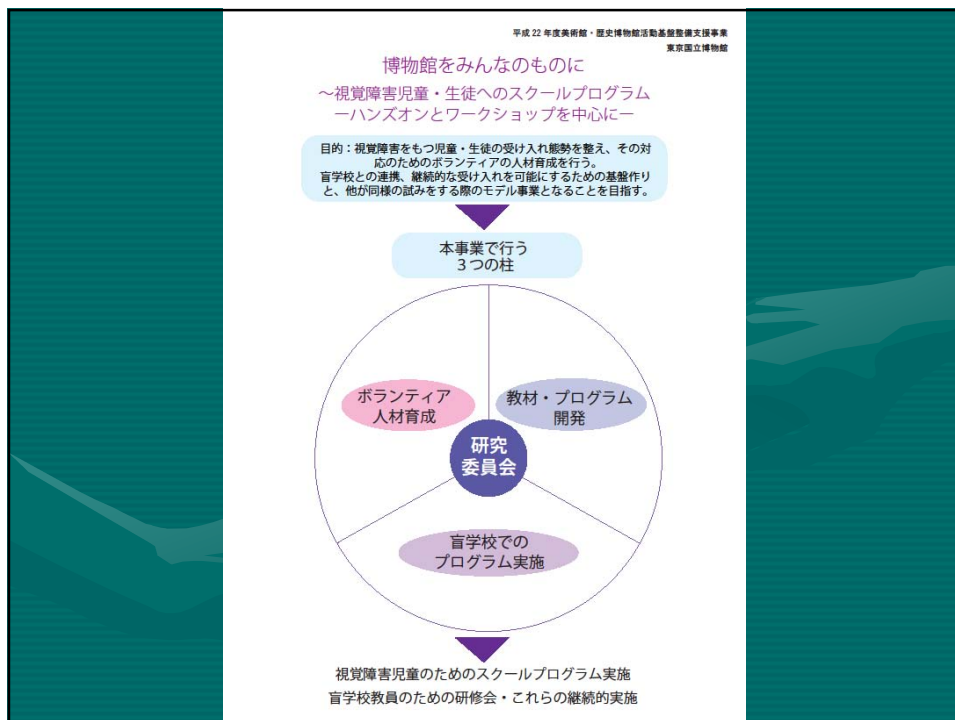
東京国立博物館 鈴木みどり


### 盲学校のためのスクールプログラム

- 開発のいきさつ
- プログラム内容
- プログラムの開発経緯
- ボランティアの役割。なぜ、ボランティアか？

## テーマを選んだいきさつ

- 国立博物館として、障害を持つ方へのアクセスが不十分（建物、コレクション、人材）
  - 盲学校の生徒に対して、スクールプログラムでの受け入れができていない（教育普及室）
  - ボランティアの点字グループの活躍の場がない（ボランティア室）
- ↓
- 八王子盲学校の弱視生徒受け入れにより、盲学校対応のプログラムができないか考えた





**東京国立博物館**

盲学校のためのスクールプログラム

盲学校のためのスクールプログラムの実施は、東京国立博物館の取組として、平成23年度から本格実施いたします。この取組は、博物館の展示物を、触覚を通して、楽しく学ぶ機会を提供することにより、盲学校の生徒の学習意欲を高めることを目的としています。

**盲学校のための**

盲学校の生徒は、視覚情報に頼らずに学ぶことができません。博物館の展示物は、触覚を通して、楽しく学ぶ機会を提供することにより、盲学校の生徒の学習意欲を高めることを目的としています。

**スクールプログラム**

スクールプログラムの実施は火曜日の平日 10:00～17:00の間（毎学年毎、ゴールデンウィーク期間を除く）

**TOKYO NATIONAL MUSEUM 2011.4-**

**東京国立博物館とは**

本館は、平成10年（1998年）に開館しました。本館は、国宝・重要文化財34種を所蔵し、展示もともにも日本一のコレクションを誇ります。（2011年2月現在）

本館は、日本と東洋の伝統美術、歴史、工芸、自然科学などを中心とした展示を行っています。本館は、日本と東洋の伝統美術に特化した展示を行っています。展示室は、展示品の種類によって、展示室のレイアウトが異なります。

中核となる展示は、日本（日本書院）、中国（北京書院）、韓国（大邱書院）、インドネシア（ジャバラ書院）の4つの展示室があります。

本館は、毎年約10万人の来館者があり、多くの方々が楽しんでいただいています。本館は、毎週木曜日を休館日としています。

**お問い合わせ先**

東京国立博物館 企画展示課 企画展示係 電話：03-3588-3333

〒100-8701 東京都千代田区千代田 1-10-1

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：毎週木曜日（祝日の場合は休館せず）

観覧料：大人1,000円、高校生以上500円、小学生以上200円（小学生未満は無料）

障がい者割引：障がい者の場合は、観覧料が半額です。

障がい者の場合は、観覧料が半額です。

障がい者の場合は、観覧料が半額です。

<http://www.tnm.jp>

平成23年4月から  
本格実施。盲学校  
(小・中・高校)  
対応



**盲学校のためのスクールプログラム ねらい**

- 盲学校の生徒のみなさんが、博物館に親しみを持ち、目的をもって、楽しみながら観覧できること
- 日本と東洋の伝統美術、歴史に親しむこと
- 日本の伝統文化に興味を持ち、生活の中でもつながりを見つけられること

## 盲学校のためのスクールプログラムの特徴

- 一人一人の生徒の興味やペースにあわせる
- コミュニケーションを大切にする
- 全盲、弱視にかかわらず、一緒に楽しみながら体験できる

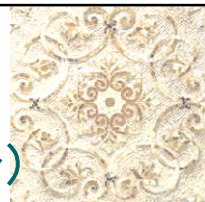
## 生涯学習ボランティアのバリアフリー班による対応



## 4つのプログラム

- A. トーハク探検
- B. 日本の模様・貝合せ
- C. トーハク・トーク・ツアー
- D. 日本の模様でデザインしよう

### A. トーハク探検 (約50分)



- 初めて来館する生徒のためのプログラム。
- 模型にふれることで、博物館の歴史、本館のたても、展示室の概要を知ることができます。
- 博物館でのマナーについてもお話します。
- 事前授業、もしくは展示見学当日の最初におすすめ。(出前授業もできます)
- **見学前の期待感を高められます。**

東京国立博物館本館模型



東京国立博物館がとても広いことや、2階建てだということがわかりました。扇子や刀などを触りました。特に刀を触ったときに先が長かったことが印象に残りました。

博物館の建物の中にてんじてある物でけんやよろいかぶとなどをさわらせてもらいとてもおもしろく建物のこうぞうもだいたいわかりました。



## B. 日本の模様・貝合せ(約50分)

- 本物のハマグリを使った「貝合せ」のゲームを通してながら、日本の伝統模様にふれられるプログラムです。
- 模様の意味や形態について親しみをもてます





- 中の模様や絵が触りやすく、点字のカードもあって、とても解りやすかった。弱視や全盲、晴眼者も遊べる楽しいゲームだと思う。
- とても楽しかった。模様が触れて良かった。

### C. トーク・トーク・ツアー(約30～90分)

- 博物館スタッフとともに、作品や展示室について、対話しながら鑑賞します。
- 言葉や体で表現したり、ツールをさわったり、たてものの一部にさわったりしながら、コミュニケーションを楽しみます。
- 生徒一人ひとりのペースや興味にあわせて見学します。





博物館の内装で唐草模様が至る所にありましたが、私は説明を聞かなかつたら、小さなものはなかなか気付かなかつたであろうと思います。



一番印象に残ったのは茶道具で「さわらび」という茶碗や粉末の茶をいれる「なつめ」や再現された茶室など古きよき日本文化をたのしめました。



ボランティアの方も、いろいろな質問に答えて  
いただいたりとても良くしていただきました。  
とてもわかりやすかったです。

#### D. 日本の模様でデザインしよう(約15分～)

- 日本の伝統模様のスタンプやコラージュなど、シンプルな材料を使った制作プログラム
- リラックスした雰囲気の中で、日本や東洋の美術に対する関心を深めます

材料をいろいろ用意して  
いただき、楽しんでつくる  
ことができました



桜や梅の形をした紙  
をはがきに貼りました。  
いいハガキになりました。

## 生徒さんの感想から

- まるで日本の歴史をタイムスリップして体験しているように思いました。
- 短い時間で見きれないところもありましたが勉強になり、充実した時間でした。本当にありがとうございました。またいきます。

## おみやげキット 日本の模様

博物館での感動をもちかえり、  
思い出しながら、学校で使ってみる。  
日常生活の中でも、伝統文化との  
つながりを見つけてみる。

1. 模様の意味を考えて、グループ分け
2. 自分だけのペアを作ろう
3. こすりだして、自分の絵を作ろう



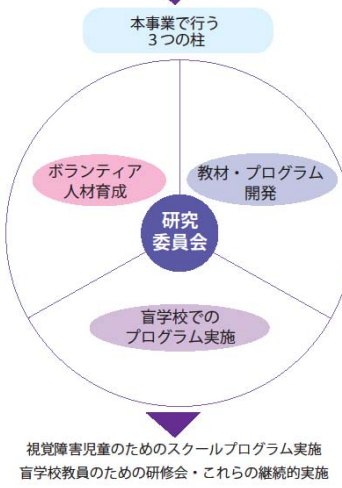
## 触知図

- 本館の展示室の、触ってわかる地図
- 建物、展示室、展示作品の特徴をあらわす
- 本館20室に常設
- 来館者の誰でも触れることができる
- ボランティアは、来館者とのコミュニケーションを通して、来館者の博物館への興味を広げる
- 当館のバリアフリーの取り組みを紹介する



博物館をみんなのものに  
～視覚障害児童・生徒へのスクールプログラム  
～ハンズオンとワークショップを中心に～

目的：視覚障害をもつ児童・生徒の受け入れ態勢を整え、その対応のためのボランティアの人材育成を行う。  
盲学校との連携、継続的な受け入れを可能にするための基盤作りと、他が同様の試みをする際のモデル事業となることを目指す。



| 実施時期                    | 計画事項                      |  |   |
|-------------------------|---------------------------|--|---|
|                         | ①委員会                      | ②プログラム・教材開発、実施                                   | ③ボランティア研修   |
| 5月中旬                    | 協力者選定                     | 東京国立博物館、九州国立博物館の蔵書教材の選定                          | ボランティア募集開始  |
| 6月20日(日)<br>於：平成館第四会議室  | 第一回調査研究委員会<br>13:30～16:30 | 方針の決定、新規教材開発開始<br>既存教材の活用検討<br>九州国立博物館「さゆらばっく」貸与 | ボランティア22名決定、委員会メンバーにより研修方針の決定   |
| 7月25日(日)<br>於：平成館小講堂    |                           |  | 第一回ボランティア研修（障害者理解、視覚障害者理解、博物館に必要なもの）真下雅生氏、半田こずえ氏 13:30～16:30              |
| 8月28日(土)<br>於：平成館小講堂    | 第二回調査研究委員会<br>9:30～12:30  | 教材制作進捗具合の報告、盲学校アウトリーチプログラムの検討                    | 第二回ボランティア研修（盲学校と美術教育について）大坂ふみ江氏、山本真氏 13:30～16:30                          |
| 10月4日(月)                |                           | 八王子盲学校の授業見学、プログラム検討                              | 第三回ボランティア研修(実施)<br>八王子盲学校 9:55～12:30                                      |
| 10月16日(土)<br>於：小講堂      | 第三回調査研究委員会<br>9:30～12:30  | 学校でのプログラム検討                                      | 第四回ボランティア研修（実例紹介 水戸芸術館現代美術センター教育プログラムコーディネーター 森山真子氏、白鳥雅二氏）<br>13:30～16:30 |
| 11月1日(月)<br>於：小講堂       |                           |  | 第五回ボランティア研修<br>盲学校でのプログラムについて、教材を使っでの研修とディスカッション<br>13:30～16:30           |
| 11月22日(月)               |                           | 文京盲学校にてプログラム実施                                   | 第六回ボランティア研修(実施)   |
| 11月29日(月)               |                           | 八王子盲学校にてプログラム実施                                  | 第七回ボランティア研修(実施)   |
| 12月18日(土)<br>於：小講堂      | 第四回調査研究委員会<br>9:30～12:30  | 異学対面プログラム検討                                      | 第八回ボランティア研修<br>盲学校の博物館見学に役立て、教材を使っでの研修とディスカッション<br>13:30～16:30            |
| 1月24日(月)14:00～15:50     |                           | 東京国立博物館で文京盲学校見学会                                 | 第九回ボランティア研修(実施)<br>13:00～17:00  |
| 2月10日(木)<br>13:00～14:50 |                           | 東京国立博物館で八王子盲学校見学会                                | 第十回ボランティア研修(実施)<br>13:00～16:00  |
| 2月13日(日)<br>平成館小講堂      | 第五回調査研究委員会<br>9:30～12:30  | 盲学校対面用スクールプログラム作成<br>地図図作成                       | 第十一回ボランティア研修（実例紹介：国立民族学博物館 広瀬浩二郎氏）<br>13:30～16:30                         |
| 3月4日                    |                           |  | ボランティア研修（準備等）教員対面スクールプログラム準備  |
| 3月5日(土)<br>於：大講堂        |                           | 盲学校教員対面スクールプログラム研修会                              | 第十二回ボランティア研修(実施)  |



## 研究委員会の発足

- メンバー

八王子盲学校、文京盲学校美術教員、  
障害者の美術館鑑賞の有識者

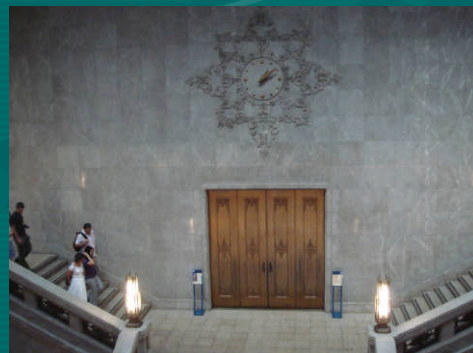
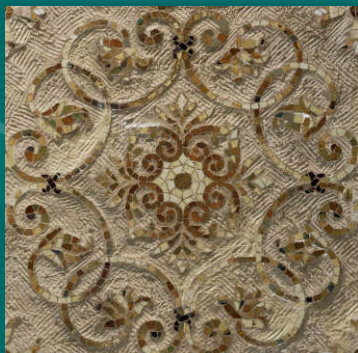
九州国立博物館研究員

+各ボランティア研修講師(水戸芸術館アート  
センター、国立民族学博物館ほか)

二ヶ月に一回の割合で開催

## 教材開発

1. 触れることで、東京国立博物館の建物、展示の概要を知ることができるもの
2. 事前授業、もしくは展示見学当日の最初に使い、期待感を高めるもの





東京国立博物館本館模型



## 教材2

1. 日本美術の作品の特徴を示すもの
2. ワークショップとして発展性があるもの





## 対応するボランティアについて

東京国立博物館生涯学習ボランティア

約160名

全員、来館者対応の基本活動を行う

イベント班  
約40名

ワークショップ班  
約40名

バリアフリー班  
22名(平成22年度)

## バリアフリーボランティアの研修 (全12回、ボランティア22名)

- 視覚障害者とは？どんな障害？
- 公共機関での障害者対応について
- 盲学校の生徒たちの学び方、特徴、美術科目の重要性について
- 視覚障害者と見る博物館見学の実践
- モデル校への実践(学校での事前授業、博物館での見学対応)

## ボランティア研修

障害者について理解



教材を使ったプログラムの検討



建物のハンズオンの検討



言葉を中心とした見学



## モデル校での事前授業

- **本館模型**

博物館に行く前の概要の理解と、わくわく感を高める



- **貝合わせ**

日本美術に見られる伝統模様について知る



共通テーマ: 模様

## 生徒の感想

- 博物館の建物の中に展示してある物で剣や甲冑などをさわらせてもらい、とてもおもしろく建物のこうぞうもだいたいわかりました。東京国立博物館が一番古い事もわかりました。色々な物をさわる事ができてとても楽しかったです。
- 貝あわせのゲームではもみじやとんぼ、うさぎなどのもようがあり、もようもはっきりしてわかりやすかったです。2月に国立博物館へ見学へ行く時にはまた色々な物が見れるのが楽しみです。
- 東京国立博物館がとても広いことや、2階建てだということがわかりました。扇子や刀などを触りました。特に刀を触ったときに先が長かったことが印象に残りました。それから貝あわせのゲームをやったことが楽しかったです。



## 改めて、なぜボランティア？

- 東博が好き！ 来館者に東博のよさを伝えたい
- 東博のことをよく知っている！
- それぞれに、興味の幅が広い
- バリアフリー班は、特に、バリアフリー対応に関心が深い
- 人生経験が豊か。
- 勉強熱心、やる気がある
- 来館者への対応が好き



- 職員とは、一味違った、幅広い対応ができる
- バリアフリー班を中心に、全ボランティアのバリアフリーへの意識が高まる
- ボランティア活動へのやりがいも高まる

## 館内のバリアフリー化

障害を持つ方へのアクセスについて、館内職員や、ボランティア内で、意識が高まっている

- ホームページ上におけるバリアフリーマップの作成
- 館内案内ボランティアやガイドボランティアによる、コミュニケーションボードの使用
- 館内の施設面でのバリアフリー化の検討

## 今年度

- 盲学校の受け入れ本格実施  
広報、ネットワーク作り、実際の受け入れに際しての調整、受け入れ後の評価、新プログラムの検討
- バリアフリーボランティアの継続と新規ボランティアの募集、研修
- 大人の視覚障害者の対応の検討
- 他の障害対応の検討、研修
- 通常のプログラムでの応用をめざす



## 実際には

- 今のところ、小学校の対応1件のみ。「博物館のお仕事」をテーマに来館。
- 申し込みはあまりないが、先生方の関心は高いようす。
- 弱視教育研究会
- 北九州盲学校の教員の見学
- 委員の波及効果あり。(全日本盲学校研究大会の発表など)

東京国立博物館でお待ちしています

